

2017

平成29年

1.27

所管 連合自治部

発行責任者 梶原宜教

昭和48年初版

第76号

44自治会
8,529世帯

題字揮毫 篠田昭新潟市長

六道



新潟市西区長 眞島 幸平

未来に向けた まちづくりを

新年おめでとうございます。
坂井輪中学校区の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
西区長に就任以来、温かなご支援助とご指導をいただき、心から感謝申し上げます。

今年度は新たに「坂井輪環境美化推進事業」として、西区の主要道路の美化活動に力を入れていただき、地域の方々から季節の花々を楽しんでいただいております。

また、この活動には、新潟大学の授業科目「コミュニケーション・インタラクション」を履修する学生にも参加していただき、活動を通じて地域の特徴や課題を理解する機会となりました。

現在、超高齢社会への対応が全国的に大きな課題となっております。本市でも地域包括ケアシステムが整いつつあるなか、貴協議会においても高齢者支援のための人材育成や研修会などを実施され、地域で高齢者を支える体制づくりにご尽力いただき、大変心強く感じております。この研修会で培われた知識と経験を活かす皆さまと私ども

も区役所が協働して、様々な地域課題解決に向け一歩一歩進んでいきたいと考えております。今後とも、地域のつながりを大切に、ご活躍されることを期待しております。



坂井輪中学校区まちづくり協議会
会長(連合自治部長) 梶原 宜教

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございませう。
坂井輪中学校区内自治会の皆様にはお健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。
昨年(2016年)はオリンピック年で日本選手活躍に心躍らせられた年でありましたが、一方で熊本地震や糸魚川の大火などあちこちで大きな災害が発生し、その都度被災地の地域力が報道されておりました。いつ私どもにも災害に見舞われる

かわからない中で、「地域の防災力」について地域の皆さんから意識を新たにさせていただくため、7月に自治会役員の皆さんから、中越地震の被災地である、おぢや、山古志、長岡を回る「中越メモリアル回廊」を視察していただきま

した。
またそのあとの11月の防災意識啓発研修には、避難所の運営について中越地震時の体験も踏まえた研修を行いました。ここで学んだことを参考に、今後の各自治会活動の中で、避難場所の設定や避難所運営についての取り組みが進むことを期待しております。

その他昨年の主な出来事として、新通小学校分離新設校の平成32年度開校を目指した建設基本計画についての検討が進んできております。また、地域整備関係として、亀貝若葉自治会と坂井自治会との間の西川に地域要望のあった人道橋の設置検討が進められています。今後の進展等については地域の皆さまの力強い支援が必要と思っております。

各自自治会の皆様にとりまして、今年が新しい活動の第一歩となる良き年となりますようお祈り申し上げます。また、「安心安全な住みよい地域づくり」のため、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成28年度
連合自治部全体会議
坂井輪連合自主防災会総会

◆連合自治部全体会議

坂井輪中学校区まちづくり協議会連合自治部全体会議（総会）は、平成28年5月22日（日）坂井輪健康センター3階大会議室に於いて、来賓の西区役所地域課長 永井 康生様をお迎えし、連合自治部38名の出席を得て、開催しました。

連合自治部 梶原部長の開会挨拶に続き、来賓の永井地域課長からご祝辞をいただいた後、総会の出席者の中から、寺尾新町第2自治会 三富正典会長を議長に選出し議事審議に入りました。上程された前年度の事業報告並びに収支決算報告と、新年度の事業計画案並びに収支予算案の審議が行われ、拍手を以て承認されました。



また第5号議案の役員選任について、当日の選考委員会で引き続き梶原部長及び10名の常任委員が選出され、満場一致で承認されました。

★収支予算書により本年度の連合自治会費は、前年度と同様に一世帯205円と決まりました。

★第5号議案の役員改選では、伊田修一常任委員及び青木功常任委員の退任に伴い新たに常任委員として、富田繁男と石田一正が選任されました。

◆坂井輪連合自主防災会総会

連合自治部全体会議（総会）に引き続き開催した連合自主防災会総会には、規約により、梶原会長が議長席に就いて、前年度の事業報告・収支報告及び新年度の事業計画案・収支予算案、その他の審議後、議事は全て承認されました。★収支予算により、本年度の連合自主防災会会費は、前年度と同じく一世帯当20円と決まりました。



坂井輪連合
自主防災訓練実施

平成28年度の合同防災訓練を10月30日坂井輪中学校グラウンド及び体育館において「強い地震が発生した」との想定のもと600数名が参加し、実施されました。



西区長はじめ西区役所、西消防署寺尾出張所、西消防団の協力で各種訓練が行われました。また体育館では、中越防災安全推進機構の講師松井様を招き、災害時における避難所運営の問題点を講演していただきました。



●各種訓練

- 今年度の訓練は、①初期消火訓練
- ②濃煙体験・応急タンカ搬送訓練、
- ③心肺蘇生AED操作訓練を3ケル

ープに分け実施。又各訓練と並行して、坂井輪中学校区まちづくり協議会女性支援隊の皆さんが中心に「アルファ米五目ご飯」の炊き出し訓練を行い、合わせて「冷たくてもおいしいレトルトカレー」と新潟市の柳都水を配布致しました。



●頼もしい中学生レスキュージュニア隊

今回、心肺蘇生AED操作訓練において、消防団ひまわり隊の皆さんと共にレスキュージュニア隊11名で参加者のAED操作指導にあたって頂き大変頼もしく好評でした。

今回の合同訓練は、各訓練を実体験して頂き、いざという時に落ち着いて行動できる事を目的に実施しました。また、避難所運営講習会は、避難所運営時の問題点等話し合い参考になったと思います。各自治会で何ができるか検討していただき、次回避難所設営訓練にも数多くの自治会の参加をお願い致します。最後に、今回の合同訓練にご協力いただいた西区役所、西消防署寺尾出張所、西消防団ほか各団体の皆様、会場となった坂井輪中学校の皆様にご感謝申し上げます。



自治会長役員等研修会 I
中越メモリアル回廊 視察研修

平成28年7月24日(日)自治会長役員等に対し、災害時における防災と避難体制について知っていただくため、中越メモリアル回廊を視察し講演を受けました。

総勢33名で坂井輪公民館を出発し、まずおちや震災ミュージアムそなえ館を視察しました。次長 松本様から中越地震概況説明をうけ、その後、



当時の自治会長で被災地域住民をまとめ、尽力された風間理事様より「災害に強い地域づくり」についてお話いただきました。やまこし復興交流館おたるでは、写真とビデオに



基づき、やまこしの被災状況や「震災時の避難所運営」の説明をうけました。

木籠メモリアルパークさとみ庵や、車窓から土砂の中からの子供救出現場であった妙見メモリアルパークを見学し、最後に長岡震災アーカイブさおくみらいで、中越防災安全機構の山崎様より、避難所運営の対応についてお話と「新聞紙使用」で緊急時の簡単スリッパ作りを、学びました。それぞれの場所において、施設視察は勿論震災体験者の方々の、生のお話を聞き、今後どのような防災準備態勢をすればよいのか、考える事が出来ました。御礼申しあげます。

自治会長役員等研修会 II
防災意識啓発研修

平成28年11月6日(日)に、二回目となる自治会長役員等に対し防災意識を高める研修を、坂井輪健康センター3階大会議室に於いて、講師 来賓の方々を含め47名のご出席のもとで開催できました。

講師に、中越防災安全推進機構 松井千明様をお招きしました。冒頭「熊本地震の避難所の状況を知る」と題して受講しました。その後、避難所ごとの8グループに分かれ避難所運営ワークを行いました。

- ① 避難所名簿についての問題
 - ② 食糧についての問題
 - ③ トイレについての問題
 - ④ 災害時要援護者についての問題
 - ⑤ ペットの同行についての問題
- 以上について、ワークを通して気付いた事前に町内、自治会で準備・話し合っておいたほうが良いことを個人で考え、グループで出し合っ

て共有しました。最後に、西区役所本多総務課長より講評をいただきました。そして、地域課の山本様、西区社会福祉協議会五十嵐様も加わり、質疑応答を行いました。

最後に、西区役所本多総務課長より講評をいただきました。そして、地域課の山本様、西区社会福祉協議会五十嵐様も加わり、質疑応答を行いました。



自治会役員の方から多くの質問をいただき、行政の方々にはいくつかの課題を持ち帰ってもらい、後日、回答をいただく事になりました。



例年と違い、今回は二度にわたり「防災・避難所運営」に重点をおき研修を実施しました。見えてきた課題は、災害発生時に行政の支援体制や、救助対応の遅れも考えられる中、住民一人一人が「災害への備えを人ごとと考えず、」対応しなければならぬということでした。

この研修が、今後の私共の防災力向上に生かせれば幸いです。ご協力いただいた方々に、あらためて、御礼申しあげます。

自治会 紹介

西坂井団地

憩いの茶の間

西坂井団地自治会会長
土屋 良海



「一人ひとりが終の日までずっと安心して暮らせる地域」の実現に向けた「地域包括ケアシステム」の構築を目指す新潟市の取り組みと坂井輪中学校区まちづくり協議会の運動に啓発され、西坂井団地憩いの茶の間に平成28年5月10日に週2回開設で始



めました。1回目の参加者は9人でした。

事前に「茶の間」開設のアンケート(参加希望、運営ボランティア参加等)を実施し、想定に近い5名以上の参加希望者(当団地の規模約170世帯人口450人、高齢化率45%)があったので、自治会館を会場とする「お茶の間」の開設を平成28年度自治会総会に諮り了承を得ました。開設にあたっては、既設の「お茶の間」の方々からのご助言を参考に、以下の点を考慮しました。①出来るだけ運営ボランティアの負担を少なくすること。②参加したいと思うように週複数回開催すること。③参加者の経済的な負担を少なくするため参加費を100円に設定。④更に長続きさせるため、いろいろな企画をせずに「お茶の間」は会場の設定と話の場を作ることにしました。先ずは「茶の間」を開設し、運営方法はみんな考えて改善することでの出発でした。

開設以来8ヶ月間の1ヶ月平均収支(7回/月開設、ボランティア参加の方々の参加費を含む)は、収入・参加費5,550円、社会福祉協議会「地域交流活動助成金(Bタイプ)2,500円/月、支出・会場費2,288円(主に光熱水道費実費)、茶菓代金4,878円、でした。「お茶の間」とは独立に10年来活動が続いている当自治会の3つのグループ活動と統合し、週4日開設の西区地域包括ケア推進モデルハウス事業として平成29年2月より衣替えいたしました。

「セフティスタッフの会」が表彰される

坂井東三丁目自治会
セフティスタッフの会代表

石田 一正

自治会長になって早、一年が過ぎようとしています。一年目での様な表彰を受けるとは思っていませんでした。これはみな前会長はじめ、役員・ボランティアの方々のご尽力の賜物と思います。

この会は自主的に結成されたもので、自治会としては各自に当番的なお願いをした事はなく、各自が出来るときに子供たちの見守り、横断歩道の安全確認を行って頂いています。雨、風、雪、夏の暑さをいとわず、登下校時の子供たちを自分の孫のように

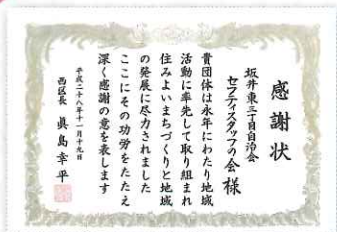
受賞おめでとうございます 今後ともますますの発展を期待します ～平成28度～

感謝状

坂井東三丁目自治会
セフティスタッフの会



中村 はま



思い、優しい目を向けています。発足は11年前、2名でのスタートと聞きましたが、現在は12名が参加しています。自治会として今後もセフティスタッフの方々が健康に留意され、無理せず自分に合った時間に長い目で子供たちを見守りをお願いしたいと思えます。心よりありがとうございます。



あとがき

昨年は、地震災害にあつた熊本、夏の台風10号による洪水、海外でも多くの自然災害、また県内では鶏のインフルエンザや、大規模火災が発生し、心の痛む災害が発生しました。災害に遇われた人たちのお気持ちに察するに悲しみが増します。今年も事故や災害が起きない様、一日もない日を切に思います。

ある人が言いました。野球の三冠王ならぬ人生の三冠王は、「感動」「感謝」「関心」だそうです。新年度はあらゆることに関心を持ちながら感動する事柄、感謝する事柄が多くあることを年頭に当たり折りたい気持ちです。(事務局)